



令和6年度 1月園だより

段原みみょう保育園



「様々なことに主体的に関わっていく力を育むために」

新年あけましておめでとうございます。

長いお休みが終わり、子どもたちの元気な声が園内に響き渡っています。今年も子どもたちと過ごす一日一日を大切に、保護者の皆様と一緒に対話を重ねながら、子どもたちの育ちを喜び合っていきたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、先月開催された幼児組さんの生活発表会では、子どもたちの姿にたくさんの感動をもらいました。3歳児ばたん組さんは、初めての発表会。ステージに上がると、すぐに会場にいる保護者の方を見つけ、手を振ったり、「私、ぼくを見ててよ」といわんばかりに、ちょっぴりはにかんだ表情で、表現している姿は、とても愛おしく、自信に満ち溢れていました。4歳児ひまわり組さんは、初めての鍵盤ハーモニカの演奏。お友だちと息を合わせて、音が重なるたびに音色が深まっていましたね。合奏はもちろん、劇や遊戯でも、自分のことだけではなく、仲間のことを思う姿が見られ、お友だちと一緒にする面白さを知ったからこそ見られた姿だったと思います。そして、5歳児すみれ組さんは、日々の取り組む過程から、「こんな踊りにしたらどう?」「台詞はこれがいい」と自分たちで考え作りあげていく姿に、自分たちで決めたことで楽しさが増し、「まだやりたい」「もう1回」とやる気に満ちあふれていました。当日の、年長さんは、自分の役を楽しんでいる姿がたくさん見られ、周りの友だちを助けたり、歌や合奏では、みんなで心をひとつにして、最後までやりきる姿に頼もしさを感じました。

いつも園だよりでお伝えしていることですが、子どもたちがこのように自分を生き生きと表現した姿は、乳児期からの温かな大人との関わり、信頼関係を育むことの積み重ねがあるからこそ見える姿です。例えば、赤ちゃんが抱っこしてほしい時に、しっかりと抱っこしてもらったり、表情や仕草で赤ちゃんが伝えている一つ一つの思いに「そうだね」「〇〇したいんだね」と丁寧に受け止めてもらうことなど、日々の丁寧な関わりの繰り返し、自分は愛されているという安心感や人への信頼感となり、さまざまな場面で何をしたらよいかを考え判断する力になっていくのです。

みみょうでは、「感謝と思いやりのある自主的な行動のとれる子に」という保育理念のもと、乳児期にしっかり可愛がられ、やりたいことをやりたいだけやらせてもらうなかで、自分に対する自信（自己肯定感）を身に付けることを大切にしています。そして、幼児期になると、子どもたち自身に何をしたいのか、そのために何が必要なのかを考えさせるようにしています。その日々の積み重ねが、様々なことに主体的に関わる姿へと繋がっていくのです。だからこそ、これからも0歳の時から子どもたち一人ひとりの姿を大切に、温かなまなざしを向けながら、一日いちにちを過ごして参りたいと思います。

園長 岩槻 由紀

